

## 「主体的に学習する児童の育成」

～ 学び合いを通して 思考力を高める指導の工夫～

### I 研究の内容

#### 1 主題設定の理由

平成23年からの3年間の研究では、子どもたちに生きる力を育むために、知識・技能を習得し、これらを活用し課題を解決するために思考・判断・表現するため、各教科における言語活動の充実、特に算数科に焦点をあてて研究を進めてきた。授業実践の中では、「活用する力」に焦点をあてた授業づくりによって、子どもたちは様々な既習事項を組み合わせて答えを導き出そうとする様子が見られた。多様な考え方や様々な解決法を見いだすような活動を要求する学習過程を設定することによって、子どもたちは新しい考え方の発見に向けて試行錯誤をしていた。また、子どもたちが発表したくなるような場を設定したり、興味関心が低下しないように効率的な表現方法や発表形態を工夫したりすることなどを通して、児童一人ひとりの学ぶ意欲を引き出す授業実践を全学年で取り組んでいった。その中で、既習の知識を活用して新しいことを考え出したり、分かりやすく表現したりすることを大切にしている指導過程の工夫や「線分図・数直線の指導の系統」に視点を向けた授業づくりを行ってきた。それを受けて今年度は、自分の考えを説明したり、友だちの考えを認めたりする学び合い・話し合いの活発な活動を意図的に仕組むことによって主体的に学習し、思考力を高める手立てを追求していきたい。さらに、甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとも連携し、「NRT」「Q-U」調査を活用して学力向上とともに学級集団づくりにも焦点をあてていきたい。

#### 2 研究の具体的な内容と方法

- (1) 算数科の授業において、学び合いの仕方を工夫することができる学習過程を工夫し改善する。
- (2) 問題解決的な学習過程の中で、学び合い活動が活発になる発問・助言の仕方を考えていく。
- (3) 算数科における「話し合い」「思考力」についての理論研究を行い、共通理解のもとで具体的指導法を探る。
- (3) 児童の実態を把握、課題を明確にする。(NRT・Q-Uの実施と活用)(児童の事態調査)
- (4) 一人一授業公開を実施し、楽しく分かるための授業の改善に生かす。

#### 3 研究実践

##### (1) 研究授業

- ・第5学年 算数科「合同な形～形も大きさも同じ図形を調べよう～」

授業者 相澤 由佳教諭

指導・助言 山梨県教育委員会義務教育課 齊藤 巧指導主事

- ・第1学年 算数科「どちらがおおい」

授業者 武井 麻子教諭

指導・助言 甲州市教育委員会 久保田 英樹指導主事

## (2) 授業公開 (一人一実践)

- |       |                   |     |    |      |
|-------|-------------------|-----|----|------|
| ・第2学年 | 算数科「はこのかたち」       | 授業者 | 向山 | 澄教諭  |
| ・第3学年 | 算数科「三角形のなかまを調べよう」 | 授業者 | 柏原 | 健仁教諭 |
| ・第4学年 | 算数科「四角形の面積」       | 授業者 | 大村 | えり教諭 |
| ・第6学年 | 理科「てこのはたらき」       | 授業者 | 筒井 | 好澄教頭 |
| ・第6学年 | 算数科「はやさ」          | 授業者 | 上田 | 信夫校長 |
| ・第6学年 | 算数科「拡大図と縮図」       | 授業者 | 廣瀬 | 敦子教諭 |
| ・全学年  | 保健「認知症ってなあに？」     |     |    |      |
- お年寄りと一緒に生きる私たち」保健集会  
授業者 内田美砂記養護教諭

## (3) 学習会

- ・「生徒指導と教育相談」

講師 泉小学校教頭

内藤雅人先生

## II 成果と課題

### 1 成果

- ・昨年度からの研究成果を継承して、研究を進めることができた。話し合い活動を通して思考力を高める授業づくりには、児童の実態把握から、日常生活に生かす発展性まで幅広く様々な取り組みができた。
- ・課題について話し合う中で、自分の考えの理由を言ったり友だちの良い意見を発表したりと考えることを楽しむ様子が見られた。また、友だちの考えを聞く過程で自考えの間違いに気づいたり、友だちがしていた方法を使って類似問題を解こうとするなど思考力の高まりも見られた。
- ・クラスの様子を各観的に見る指標としての Q-U 調査は、学級経営に生かせる有効な手立てだった。授業をするのも学級集団づくりがベースにあるため Q-U の調査の分析と活用を今後も積極的に行いたい。
- ・管理職を含めた全教職員の一人一実践の授業公開は、1年生か6年生までの発達段階における話し合い活動の充実を図る手立てを共通理解することができた。指導者それぞれの個性や指導に対する熱い思いが感じられ、自分の教育実践に大いに参考になった。
- ・研究授業を通して、課題提示、自己解決に向けての見通し、課題解決、話し合い、学習のまとめ、学習環境、発問等の改善について多くのことを学ぶことができた。

### 2 課題

- ・「なぜこの式になるのか」「その式は何を表しているのか」など根拠を明らかにすることができたり、友だちの発問から「どうしてそう考えたのか。どうすれば良かったのか」等の発言ができたりするために、今後も教師の発問や授業展開の工夫を心がけていきたい。
- ・分かりやすいノートきれいに書くノートだけではなく、友だちの考えを書き入れたり自分の考えを明確に書いていたりするノートを目指し、日々の実践で指導を行っていく。学年の系統性がつながるようにノートを見合う機会を設けていく。

## III 成果物

- 1 研究授業・一人一実践授業実践指導案
- 2 保健・図書集会資料

(研究主任 廣瀬 敦子)